

建設防災 ボランティアニュース 第 90 号

目次	・ 年頭の挨拶	
	・ 河川愛護月間行事	
	夏休み多摩川教室	
	川を歩こう	
	・ 橋と土木展	他

年頭のご挨拶

新年おめでとうございます。



相場会長

会員の皆様にとりまして、本年が平穏で幸多い良き年であります様、お祈り申し上げます。

昨年8月から9月にかけて各地で発生した豪雨および暴風雨は、日本各地で大きな被害をもたらしました。都内でも目黒区で1時間134mmの降雨を観測するなど豪雨に見舞われ、千棟を超える家屋等で浸水被害等が発生しました。

10月には台風22号に伴う豪雨により、八丈島において大規模な土砂災害が発生しました。

被害に遭われた方々へ心よりお見舞い申し上げます。八丈島では、土砂災害への応急対策が年明けまで続き、その後の簡易対策、恒久対策へ移るにはまだ時間を要するとお聞きしました。日々災害復旧に携わる本庁、支庁職員の皆様や、応援派遣となった職員の皆様に敬意を表します。

昨年末には青森県東方沖で最大震度6強の地震が発生し、初めて後発地震注意情報が発表されるなど、大規模震災の発生リスクは年々高まりつつあると感じます。発災時に当協会による支援活動が速やかに発動出来ますよう、平時より心構えを保ち、突然の災害に備えてまいりたいと思います。

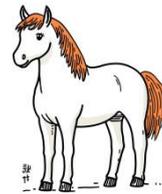
また、協会活動の大きな柱の一つになっております勝どき橋ミニツアーは、昨年ツアー開始

より20周年の区切りの年を迎え、参加者1万人も達成いたしました。皆様のこれまでの活動に感謝を申し上げますとともに、次の10年に向けて、今後とも活動をしっかり継続してまいります。

最後になりましたが、東京都建設局、東京都道路整備保全公社、東京都公園協会の更なるご理解ご支援を賜ります様お願いいたしますとともに、会員各位の今年一年のご健勝を祈念いたしまして、年頭の挨拶といたします。

令和8年 睦月

会長 相場 淳司



河川愛護月間行事

「夏休み多摩川教室」

～見たい聞きたい触ったり～

9月11日は、記録的短時間大雨警報が発令され、立会川や谷沢川が氾濫するなど、川の恐ろしい面が再認識されました。“記録的“や”観測史上最高“などを冠する雨の降り方も、毎年のように更



新されるご時世となりました。

都で実施している、河川や下

水道の整備、流域対策の重要性も切実に再認識する事態でした。在職中、携わった身としては、少しでも水害対策に貢献できたのかなと思いつき返す出来事でした。



水替えと敷物で何とか足元を確保

明けて13日未明、昨夜の雨も少し残り、夏休み多摩川教室は開催できるのだろうか？河川敷は泥まみれでは！と心配しつつ、いそいそと出掛けました。水に親しむ≡水浸し、も想定して靴や服装もそれなりに装備していきますと、多摩川土手上から遠目では綺麗な河川敷が広がっています。

よしよし、しめしめと思って入場しますと、そこかしこに水溜まりが出来ています。防災ボランティア相方の高瀬さんと、最初に河川部のテントに到着しましたら、運悪くその辺りが一番水溜まりが酷い状況でした。



子供たちにグッズを配布する高瀬さん

水溜まり対策は、現職の方々と協力して敷物を移動したり、机や備品の位置を工夫したり、水替えしたり、13日の前半はテントへの観客動線の確保に悪戦苦闘しておりました。応援の方も来られ、力を合わせると何とかなるもので、お迎えする準備も整ったころから、お客さんがチラホラお見えになりました。会場全体でも、客足はスロースタータ

ーだったのか、丁度良い頃合いです。

模型を使った説明や、パネルでのクイズなど、説明の皆さんは実に子供慣れしていて、現職の保母さん保父さんの様でした。地方公務員にしておくには勿体ない!?、と思ったほどです。

昼前には、少し余裕が出て、他のテントやブースを見て廻りました。投網の試技が印象的でした。



永井さん



環境計画
丹羽課長代理

川が持つ「怖い面」、「楽しい面」、「豊かな面」が幅広く体験できる、良い催しだったと思います。

北南建班サブリーダー 永井伸芳



川を歩こう 「旧中川」

令和7年10月4日(土)曇っていましたが秋の風が心地良い日に、旧中川で河川愛護月間関連行事「川を歩こう」が行われ、内部河川工事課、河川部、江東区のスタッフに加え、国土交通省荒川下流河川事務所の職員と、建設防災ボランティア五建班の新井田さんと清水が参加しました。

都営新宿線東大島駅に8時30分に集合し、当日の行程や役割などの説明を受けた後、9時40分に参加者38名が2班に分かれ、川を歩こうがスタートしました。



今回は、荒川下流河川事務所と連携し、荒川ロックゲート周辺の賑わい創出の一環として、参加者の皆さんに、ロックゲート監視室見学と利用方法や諸元等を荒川下流河川事務所の職員が説明しました。



江東内部河川の東側はAP.-1.0に水位低下されており、このロックゲートで荒川との水位を調整し、水位低下河川である旧中川に船舶が行き来しています。偶然にも見学中に旧中川より船舶2隻

が来たため、ロックゲートの稼働を見ることができました。



参加者から、今の水位差はどれくらいあるのかとか、水はどのように入るのかななどの質問があり、予定時間を大幅に過ぎるほどに盛況でした。

スタート地点より5分の2くらいの位置ある川の駅付近から雨が降り始め、さくら大橋では土砂降りになりました。こんな中でも説明をされているスタッフは、旧中川の歴史や魅力などお伝えしようと、とても親切丁寧な対応をされていました。



この雨の影響なのか途中離脱される参加者もありましたが、最年少の3歳の男の子は、両親と最後まで文句も言わず一生懸命歩き抜いたのを見て、思わず褒めてしまいました。

最後に解散場の亀戸中央公園で行われたアンケートでは、好印象な感想が多かったと東京都の担当者から報告がありました。参加されましたスタッフの皆さま、雨の中本当にお疲れさまでした。

五建班 サブリーダー 清水幸一

川を歩こう 『石神井川』

『石神井川』は私の地元です。3回目の参加

今回もまた今年一番とっていいくらいのさわやかな青空に恵まれた、10月18日(土)、河川愛護月間行事、川を歩こう「石神井川」に参加しました。



小林さん

岡上さん

一般の方36名に対して、我々スタッフは、四建さんと六建さんが合同で取り組んでおり、照井課長をリーダーに職員総勢18名、板橋区職員2名、そして建設ボランティア2名(岡上会員、小林)の万全の態勢でした。



照井工事第二課長による事前説明

10:00に集合場所の板橋区役所を出発して、旧中山道の宿場町跡を通り、石神井川にかかる板橋から川沿いを歩いて北区の王子駅付近、音無橋までの約4.5km、途中休憩も適宜加えながら約2時間半、北区の私の出身中学校の裏も通る懐かしい「川を歩こう」でした。

7月に入都されたばかりの経験者採用の方も含め皆一生懸命に参加者対応をされている姿が印象的でした。特に説明者は、昔部下だった若手の

課長代理、始まる直前まで資料の確認をするなどやや緊張した様子でしたが、途中説明の際に笑いをとるなど上手な進行にビックリ。後輩が立派に成長していることがうれしかったです。またご指導されたベテラン職員の方々にも感謝です。



終了後のアンケートでは、「いろいろ説明してもらい石神井川についてよくわかった」とか「説明が丁寧でわかりやすかった。治水事業について理解を深められた」などお褒めのご意見をいただいたようで職員の方々もほっとしたことでしょう。

去年は隅田川を歩こうに参加された方もいて、結構世間には川好きな人が多いようです。ありがたいことです。



改めて、石神井川はこの地域も含め都内河川の中でも、湧水が多くきれいで水量が豊富な河川だと実感しました。このため水力を活用した火薬工場が存在したことなど、河川沿いのこの地域は、加賀藩の下屋敷跡とか旧陸軍の施設跡が多いという特徴があります。その敷地を活用した大規模な病院やマンションなどが林立していることを今さらながら確認できました。

何度来ても様々な発見があり楽しく、大満足の日でした。地元の私はまた来年参加させていただきます。皆様ありがとうございました。

四建班リーダー 小林一浩

川を歩こう

「多摩川・奥多摩コース」

10月18日(土)に西多摩建設事務所により催行された「川を歩こう(多摩川・奥多摩コース)」にお手伝いで参加しましたので、当日の様子を少しご紹介いたします。

当日は晴天に恵まれ、朝の9時前に青梅線鳩ノ巣駅に老若男女60名近くの一般参加者が集まりました。



白丸ダムから魚道への階段

奥多摩観光協会の名人達人ガイドさん達の案内・説明により、双竜の滝、雲仙橋、玉川水神社、鳩の巣吊り橋などの名所旧跡を巡りながら多摩川の溪流沿いをゆっくり歩くこと90分、お昼前には最終目的地の白丸ダム魚道に到着しました。

世界有数の落差と延長を誇る魚道を実地に見ながらその意義や仕組みを学び、皆さん興味深そうに見入っておられました。



白丸ダムより魚道を望む

最終地点では公園協会の職員方による展示や説明もあり、イベント全体を通してとても充実した内容でした。

多摩川の上流部は中下流部と異なってかなり深い渓谷となっており、遊歩道にはそれなりに上り下りや岩場もありました。

相当年配と思しき参加者も複数おられましたが、西建の若手精鋭職員の適切な誘導・補助で一人の故障者もなく、皆様安心して奥多摩の初秋を満喫しておられる様子でした。

折から、今年は全国的に熊の出没が多く、ニュースで話題となっておりますが、スタッフの皆さんはもとより、参加者の多くの方々も熊除けの鈴をリュックに付けていたのが印象的でした。

最後に、年配の参加者の方からいただいた「すばらしかった。ずっと続けてほしい」とのお言葉を付して報告を終わります。

西建班 東野寛



白丸ダムに向けて多摩川を上る

川を歩こう 「隅田川」 に参加して

令和7年10月25日(土)に「川を歩こう(隅田川コース)」に防災ボランティアとして一建班の藤野さんと共に参加しました。当日の一般参加者は49名、生憎の小雨で肌寒い日となり、皆さんにはちょっと気の毒な天候となりましたが、途中怪我人や体調不良となる方もなく、無事に行事を終えることができました。

行程は、はじめに両国リバーセンターから東京



内野さん 藤野さん

水辺ラインに乗船し隅田川を遡り桜橋へ、そこからUターンして越中島まで下る約1時間のクルージングでした。その後、徒歩で大川端地区や佃島などを巡り、佃大橋を渡って明石町の聖路加ガーデンに至る約2時間のミニツアーでした。

東京水辺ラインのクルージングでは、水先案内人である



隅田川リバーガイドの方から、隅田川のスーパー堤防整備の状況だけでなく沿川の歴史や文化に渡る説明があり、参加者の皆さんも熱心に耳を傾けていました。途中浅草付近では、私が江東治水事務所に在籍(内部河川工事課長)していた頃に手がけたテラス修景現場を眺めることができ、私自身も来し方を思い出しつつ感慨深い船旅となりました。

越中島からの徒歩ミニツアーでは、治水班、一建班、五建班の3班に別れ、各事務所の若手職員が説明者となりました。皆さん事前の予行練習もしっかりとされていましたが、雨の中でも何とか参加者の皆さんへ良い説明ができるよう努める姿は初々しく、是非こうした経験を今後活かして頂



中央大橋上流左岸、大川端地区

ければと感じました。(私にも遠い昔にそんな頃があったのですが。。)

最後は、参加者の皆様からアンケートを頂き解散となりました。アンケートでは「都担当者の説明がわかりやすかった」、「知らなかったことを色々聞くことができ良かった」など、好意的な感想が多く寄せられたと聞いています。

事務所の皆さん、イベント後の打ち上げではさぞ美味しいお酒を飲まれたことでしょう。

毎年、河川愛護月間の行事では様々なイベントが開催されています。とりわけ「川を歩こう」は一般参加者の皆さんと半日ご一緒し直接会話ができる貴重な機会です。各事務所の皆さんは準備等でご苦労されていますが、毎年のちょっとした工夫が積み重なり、私が在籍していた頃に比べ良いイベントに育っていると感じました。今後もこのイベントの成長を微力ながら応援していきたいと思っています。

五建班サブリーダー 内野祐彰

「橋と土木展」

～老若男女・親子も楽しめる「橋と土木展」～

土木の日(11月18日)に合わせたイベント「東京 橋と土木展」(同時開催:土木学会主催「土木コレクション」)が11月20日から22日までの3日間、新宿駅西口イベントコーナーにおいて開催されました。

「橋と土木展」では、昨年引き続き、「橋の魅力を知る」というテーマのもと、120点を超える橋



の浮世絵(道路整備保全公社:紅林課長所有)や隅田川橋梁群のライトアップ写真、品川エリア開発前のジオラマが展示されていました。また、環状4号線の送り出し架設のビデオ、築地大橋の台船一括架設のビデオなど、盛りだくさんの内容でした。

さらに、「土木コレクション」では、昭和100年の節目の年であることから、これまでに造ってきたダムなどの大型インフラの模型や写真、台湾土木遺産なども展示され、老若男女・親子連れや若いカップルなど多くの方が見学に来ていました。

ボランティアは、品川エリアのジオラマ担当ということでしたが、保全課職員からは、どの場所でも結構ですということで、私が現役時代携わっていた「隅田川橋梁群のライトアップ」の箇所で、来場者の対応を行いました。中には、じっくりと観察する方もいて、そのような方には、丁寧に橋梁の架設年代から現在に至るライトアップの話などをさせていただき、大変良くわかりましたと感謝のお言葉なども頂きました。

土木に親しみが無い方でも十分に楽しめる内容でした。土曜日の持ち時間後に紅林さんと話す機会がありましたが、本イベントのような内容を常設で設置してもらいたいとの意見があったようです。

今回は、13回目の開催でしたが、今後も永続的に続けられるようにボランティアの一員として、見守っていきたいと思います。

三建班 高瀬照久

〔会場風景〕



私の担当は土曜日でしたが、初日の夕方に状況を視察し、イブニングトークで「ミスター橋オタク」の紅林さんの「日本の珍橋・奇橋」を拝聴させていただきました。当日、隅田川ツアーの案内役のボランティアの皆さまも参加され、50席用意された椅子席もすべて埋まったうえに、立ち見の方も多く、盛況でした。



最終日の土曜日は、一般の方が多く参加され、品川駅前のジオラマや浮世絵など熱心に観察されていた方が多くいらっしゃいました。

景品も盛りだくさんで、クイズやアンケートに答えると「橋カード」や重要文化財である「勝鬨橋・永代橋・清洲橋の扇子」の配布などがありました。クイズを解くには、一通り見学しないと簡単に答えられないような工夫が施され、これも職員皆様の知恵により、この土木展を盛り上げようとする叡智が詰まっていました。

「橋と土木展」には、現役時代も含め参加したことがありませんでしたが、非常に盛りだくさんで、

〔橋と土木展・参加者〕

(敬称略)

11月20日(木)	荒井 一郎	永井 伸芳
11月21日(金)	齊藤 俊之	島津 哲也
11月22日(土)	地引 尚治 後藤 広治	高瀬 照久 大坪 安則

高木省三さんを偲んで



六建班の高木省三さんが昨年の9月4日に亡くなりました。享年85歳でした。平成13年の入会以来、24年の長きにわたり協会の活動に参加されてきました。勝どき橋ミニツアーにも当初から参加され、足腰が弱くなられた最近も機械室に降りない役割で活動を続けられ、先の研修会で20年継続支援者の感謝状を贈呈される直前のご逝去でした。

昨年2月に肝臓癌と診断、5月には余命2か月との宣告に、ご自宅での緩和ケアを選択され、ベッドにパソコンを持ち込んで、大学ノート数十冊の日記をベースに誕生から学生時代、そして都庁時代の仕事を中心に綴った備忘録「私の来し方」の作成に打ち込まれたそうです。非常に理知的でお優しく、実直なお人柄に加え、クラシック音楽、ゴルフ、水泳、混声合唱団、中国語の学習等々ご趣味も多彩で、豊かな人生を楽しんでおられたそうです。

私の技術管理課時代の上司であり、隣駅にお住まいだったこともあり、退職後もゴルフや飲み会等で度々ご一緒し、時々近所でお会いすることもありました。近くの病院で偶然お会いしたのが最後になりましたが、亡くなられるとは思ってもおらず、短い会話でお別れしたことが悔やまれます。

これまでの建設防災ボランティア協会、そして勝どき橋ミニツアーの活動に感謝するとともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

林 幹生

センター（募集人数30名）

内容:新しい防災気象情報説明(気象台)

※詳細は別途お知らせします。

- ② 各班からの活動報告を心よりお待ちしております。また、自己紹介がお済みでない新入会員の皆さまも、ぜひ下記編集担当理事又は西村まで原稿をお送りください。

西村アドレス(iwana-246ra@outlook.com)

- ③ 協会のH.P(東京都建設防災ボランティア協会掲示板 <http://tokyo-adv2.info/>)には、最新の情報、バックナンバー、建設局報などが載っていますので、積極的にご活用ください。なお、建設局報の閲覧には、パスワード「kyokuhou」の入力が必要です。

編集後記

暮れの12月8日深夜に青森県東方沖で発生した地震は、八戸市で最大震度6強を観測するなど各地に被害をもたらしました。ただ、この地震で死者・行方不明者は発生せず、過去の震度6強の地震と比べると住宅などの被害も大幅に少なかったとのことです。また、同月14日には能登半島沖を震源とする震度4の地震が発生しました。

大きな地震は寒さの厳しい時期に多いような気がします。災害への備えを改めて考えさせられます。(N)

発行人 相場淳司

発行 東京都建設防災ボランティア協会
〒163-0720 新宿区西新宿 2-7-1
新宿第一生命ビル 20F

(公財)東京都道路整備保全公社内

編集 岡村浩志、佐野正生、地引尚治、
西村行正、林幹生

協会からのお知らせ

- ① イベント等の開催予定

・砂防講習会(気象関係)

令和8年2月16日(月)10:00~12:00

場所:国立オリンピック記念青少年総合

